

令和4年度 全国学力学習状況調査から

羽曳野市立古市小学校

1. 調査の目的

この調査は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、結果を把握・分析し、教育全体の質の向上をめざすものです。学校においては、教育指導の充実や授業改善に取り組み、さらなる教育の質の向上をめざすために取り組まれています。今年度の調査内容は、教科として国語・算数・理科、学習意欲・学習習慣・学習環境・生活面を調査として質問紙がありました。

本校では、調査結果を踏まえ、児童の学習状況の改善や指導内容・指導方法の改善に努めてまいります。

本校の調査結果と分析については、以下のようにお知らせいたします。

2. 調査の対象・・・第6学年児童

3. 調査の実施日・・・令和4年4月19日

4. 調査結果

	成果	課題
国語	「話し言葉と書き言葉との違いを理解する」問題や「必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことを中心に考える」問題について、高い正答率を得た。 「互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、自分の考えをまとめる」問題は大阪府平均と同程度であった。	「文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つける」問題や「漢字を文の中で正しく使う」問題については大阪府平均を下回った。また、無答率も3割程度あった。
算数	「被乗数に空位のある整数の乗法の計算をすることができる」問題について、高い正答率を得た。 乗法などの計算問題については大阪府平均や全国平均をやや上回った。 目的に応じてデータの特徴を捉え考察する問題も、大阪府平均、全国平均をやや上回った。	「二つの数の最小公倍数を求めることができる」問題や「長方形の意味や性質、構成の仕方について理解している」問題については、大阪府平均を下回った。記述問題について無答率が1割程度あった。
理科	「観察で得た結果を問題の視点で分析して解釈し、自分の考えをもつことができる」問題について高い正答率を得た。 「問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えをもつことができる」問題や「自分で発想した予想と実験の結果を基に、自分の考えをもつ」問題については大阪府平均と同程度であった。	「メスシリンダーという器具を理解している」問題や「観察などで得られた結果を分析し、自分の考えをもつことができる」問題について大阪府平均を下回っている。無回答率も1割を超える。
児童質問紙	学習面 「5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか」「家で学校からの課題で分からないことがあったとき、どのようにしていますか」などについて肯定的な意見の児童の割合が全国平均より大きい。 生活面 「先生はあなたのよいところを認めてくれている」などで肯定的な意見の児童の割合が全国平均より大きい。	学習面 「5年生までの授業で自分の思いや考えをもとに作品や作文など新しいものを創り出す活動を行っていた」について肯定的な意見の児童の割合が全国平均より小さい。 生活面 「学校の授業以外に、どのくらいの時間、読書を読みますか」という問いで、1時間以上読書している割合が1割。まったく読まない割合は3割を超える。 「テレビゲームをする一日の時間」「SNSや動画視聴する時間」が4時間以上の児童の割合が全国より大きい。
	<ul style="list-style-type: none"> 朝食を毎日食べている児童は、学習においても正答率が高い傾向がみられました。 ゲームをする時間や動画視聴を見る時間が長くなるほど、正答率が低く無回答率が高くなる傾向が見られました。 	

[課題の解決にむけて]

文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけられる授業に取り組んでいきます。

[課題の解決にむけて]

最小公倍数や最大公約数の意味を理解し、求められる授業に授業や、図形を構成する要素に着目して、考察できる授業に取り組んでいきます。

[課題の解決にむけて]

目的に応じて器具や機器を選択し、観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けられる授業に取り組めます。

5. 結果から考えられること

○本校の研究教科「算数」においては、日々の学習活動を通し、自分の考えを伝え合い、深い学びへつなげる取り組みが、一定の成果をあげていると考えられる。
○一方で、学習してから時間が経過した内容については、学習内容の定着に課題がある。

6. 今後の主な取り組み

○児童が主体的に学習に取り組めるように、教育活動全般を通して自己肯定感を高めていく。その一環として、上手に自分の考えをまとめられたノートを紹介するスペースを確保し、互いに学び合えるよう掲示する。
○今後も研究テーマ「自分の考えを伝え合い、深い学びをめざして」の実現に向けた授業実践を重ね、その成果を日々の授業に取り入れていく。
○特に算数の授業の進め方として、「出合う」・「結びつける」・「向き合う」・「つなげる」・「振り返る」の学習活動を大切にし、主体的・対話的に深い学びにつなげていく。
○基礎学力の定着と、家庭学習習慣づくりにつながるような宿題や自主学習の取り組みを発達段階に応じてすすめていく。
○例えば筆算の補助記号の書き方の統一など、指導する教師によって答えや途中の過程の書かせ方について1年から6年まで系統的な指導を進めていく。
○朝読書を週4回取り組み、図書バックの活用をすすめ、常に本を傍らに常備することで、読書に親しむ習慣を育てるとともに、家庭でも読書に取り組みやすくし、語彙力の向上をはかる。
○1人1台のタブレット端末などのICT機器を有効活用し、情報活用能力の育成を図る。
○保幼小中の連携を強化し、学びの連続性を意識した一貫教育の実現をめざす。

7. ご家庭へのお願い

○自主学習ノートなどを利用し、現在取り組んでいる学習内容はもちろん、以前に学習したことの復習などにも積極的に取り組んでください。
○ゲームやSNS、ユーチューブなどの動画視聴は、時間や使い方を決めていただくようお願いいたします。
(文部科学省による資料でも就寝時間の1時間前から利用を控えるよう呼びかけています)